障がい者スポーツの競技力向上と競技普及において研究者が果たす役割とは？

宮本 彩
人間社会学部 国際観光学科

What is the role of researchers to improve of competitiveness and grow popularity in disability sports?

Aya Miyamoto
Dept. of International Tourism, Faculty of Human and Social Studies

本発表の演題名として、私が障がい者がスポーツに関する研究をはじめて以来、問い続け、問われ続けている「障がい者スポーツの競技力向上と競技普及において研究者が果たす役割とは？」を据えた。発表者は、障がい者スポーツの１つであるアンプティサッカーに関する競技力向上と競技普及に向けた研究を進めてきた。競技力向上に向けた研究では、競技者の体力、競技パフォーマンスの評価や攻撃的側面のゲーム分析に加え、直線的なスプリント走の速度向上に関わる走技術の解明に取り組んできた。他方、競技普及に向けた取り組みとして、アダプテッド・スポーツ教育プログラムの実施とその教育効果の検討を行ってきた。これら研究成果をいかに競技者や指導者に還元していけるかが重要であり、今後の大きな課題といえる。

The title of the presentation is “What is the role of researchers to improve of competitiveness and grow popularity in disability sports?”. This question has been asked around and by myself since I studied about disability sports. I focus on the amputee soccer, which is one of the disability sports. I have been studying from two perspective: improving of competitiveness and growing popularity. Studies of improving of competitiveness were about characteristics of anaerobic performance in Japanese players, profile of match performance and heart rate response, game analysis of attacking aspects, and motion analysis of sprint running. The other study was about growing popularity one. I conducted an educational program of adapted sports and examined the effects. It is important to return the results of the research to players and coaches, and this is a major issue in the future.

キーワード：アンプティサッカー，パフォーマンス評価，アダプテッド・スポーツ教育
Keyword: Amputee soccer, Evaluation of sport performance, Education of adapted sports

Ⅰ 研究背景

スポーツ基本法の制定や今年開催される東京オリンピック・パラリンピックなどを背景に、障害者スポーツの理解促進に向けた取り組みが推進されている。急速な社会からの注目と期待は、障害者スポーツの競技普及や競技環境の改善に追い風となる一方、慢性的な人手不足などの課題に拍車をかけ、競技団体ならびに競技関係者への負担の増大が懸念されている。さらに、パラリンピックの設立趣旨への理解が薄く、当初の趣旨に反して競技力向上への期待も高い。これら障がい者スポーツを取り巻く状況を踏まえ、サポート体制拡充に向けて 2014 年度から日本障害者スポーツ協会が医・科学・情報サポート事業や選手発掘・育

成・強化が進めているが、パラリンピック種目のみと限定的である。著者が研究対象とするアンプティサッカーも医・科学・情報サポートの充実が待たれる競技種目の 1 つである。

アンプティサッカーは、上肢あるいは下肢に切断や麻痺などの障害のある人のために、1980 年に米国にて設計された障がい者サッカーの 1 つである。医療・リハビリテーションや日常生活において使用されているクラッチ（杖）を用いて競技を行うため、気軽に楽しめるスポーツとして、欧州を中心に人気が高まっている。2017 年のヨーロッパ選手権決勝戦では、4 万人を超す観客がスタジアムで声援を送ったと報じられたほどである。日本では、2008 年に競技普及が始まり、この 10 年間で着実に競技普及と競技力向上が進んでいる。現在、9 チームが活動し、約 100 名が選手登録をしている（日本アンプティサッカー協会, 2019 年 11 月時点）。ジュニア・ユース世代の競技者も台頭し、2018 年 W 杯では参加 24 か国で 10 位と過去最高順位を記録した。

Ⅱ 競技力向上に向けた取り組みと成果報告

これまでに競技者の体力の測定・評価 [1]、アンプティサッカーの試合中の走行距離や心拍数を基にした競技パフォーマンスの評価 [2]、攻撃的側面に関するゲーム分析 [3]、直線的なスプリント走の速度向上に関わる走技術の解明 [4] に取り組んできた。なかでも、アンプティサッカー競技者の動作に着目した研究は稀有であり、測定および評価方法の提示も含め、今後の研究に役立つ知見を提示できたと考えている。また、客観的データの収集に留まらず、競技者の主観的評価や意識調査も進めている。これら研究成果が、トレーニングや指導現場で有効活用されるよう、日本アンプティサッカー協会へ報告書ならびに提言書として提出するなど、成果の発信および公表に努めている。

Ⅲ 競技普及に向けた取り組みと成果報告

社会的背景や著者自身の研究活動の中で、研究者あるいは大学は、競技普及の一翼である障がい者スポーツを支える人材の育成にも注力する必要があると考えるようになった。そこで、本学国際観光学科スポーツツーリズムコースの学生を対象に、アダプテッド・スポーツ教育のプログラムを実施し、その効果を検討してきた。実施した教育プログラムはいずれも障害に関する知見の提示よりも、障がい者アスリートとの関わりを重要視するものであった。参加学生のアンケート調査や感想文から、障がい者アスリートとの関わりが学生たちのスポーツの価値や意義への理解をより深化させることがわかった。さらに、障がい者アスリートにとっても、学生たちとの交流は、障がい者スポーツの意味や魅力、障がい者アスリートとして社会から期待される役割を考える機会になることがわかってきた。

1) Miyamoto A et al. (2018) Characteristics of anaerobic performance in Japanese amputee soccer players. *Juntendo Medical Journa*l, Volume 64, Issue Suppl.1: 1-5.

2) Maehana H, Miyamoto A et al. (2018) Profile of match performance and heart rate response in Japanese amputee soccer. *The Journal of Sports Medicine and Physical Fitness.* 58(6):816-824

3) Maehana H, Miyamoto A et al. (2018) The Comparison of Attacking Aspects between the International Level and Domestic Level in Amputee Soccer Tournament. *International Journal of Sport and Health Science.* 16:1-9.

4) Miyamoto A et al. (2019) The relationship between sprint speed and sprint motion in amputee soccer players. *European Journal of Adapted Physical Activity.* 12(2).